

T&G TAKE and GIVE NEEDS

株式会社テイクアンドギヴ・ニーズ
2012年3月期
第2四半期決算説明資料
Part1

本資料は株式会社テイクアンドギヴ・ニーズの2012年3月期の業績及び経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。

本資料に記載した意見や予測等は、資料作成時点での当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証又は約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。

株式会社テイクアンドギヴ・ニーズ 経営企画部

Tel 03-6833-1172

E-Mail ir@tgn.co.jp

HP <http://www.tgn.co.jp/company/ir>

I. 2012年3月期 第2四半期 連結決算概要	P4
1. 総括	P5
2. 連結業績計画と実績値との差異	P6
3-1. 連結 損益計算書	P7-P10
3-2. 連結 貸借対照表	P11-P12
II. 2012年3月期 重点施策	P13
中期ビジョン	P14
1. 事業基盤の更なる強化	P16-P19
2. 成長への足固め	P20-P22
3. 海外事業の積極展開	P23-P24
III. 2012年3月期 通期業績計画	P25
1. 連結 通期業績計画	P26
2. 配当予想について	P27

Results of Second quarter
FY Ending March 2012

2012年3月期 第2四半期 連結決算概要

I 1. 第2四半期総括

第2四半期業績は上方修正して着地

既存店が順調に推移し、8月発表の修正計画を更に上回る

挙式披露宴単価は上昇基調を継続

既存店は前年比約**10**万円増加

成長への足固めが進む

ホテル提携案件、新店の業績は堅調に推移

T&G
TAKETOP GIVE NEXT

✓まず始めに、第2四半期の総括についてご報告いたします。

✓2012年3月期第2四半期における業績は既存店が順調に推移し、8月5日に発表した修正計画を上方修正して着地いたしました。

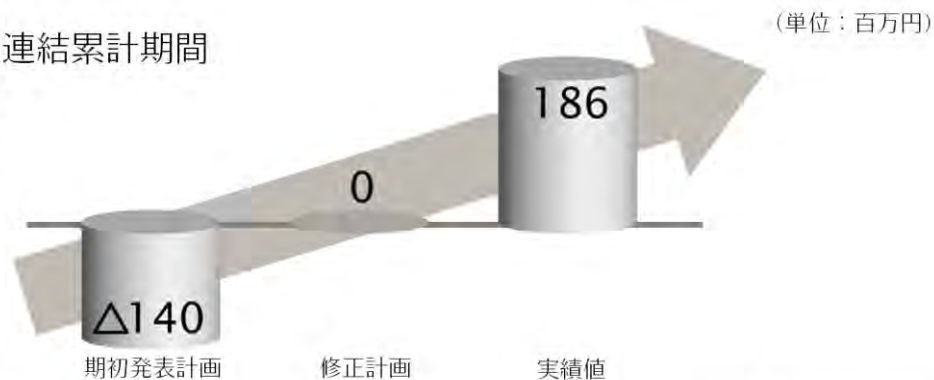
✓重要指数である挙式披露宴単価は前年からの上昇基調を継続し、既存店において前年と比較すると約10万円の増加となりました。

✓また、ホテル提携案件や新規店舗の業績も堅調に推移し、成長への足固めが進んでおります。

I 2. 連結業績計画と実績値との差異

8月発表の修正計画を更に上回り着地

第2四半期連結累計期間
営業利益



単位: 百万円	期初発表 計画	修正計画 (A)	実績値 (B)	増減額 (B-A)	増減率 (%)
売上高	22,000	22,000	22,099	+99	+0.5%
営業利益	△140	0	186	+186	-
経常損益	△450	△300	△50	+249	-
四半期純損益	△460	△400	△98	+301	-

※ 修正計画は2011年8月5日修正値

T&G
TAKI and GIVE FRIENDS

✓連結業績計画と実績値との差異のご説明です。

✓第2四半期連結累計期間の営業利益は、期初に発表した計画△140百万円を8月5日に0円に上方修正いたしましたが、実績値は その計画を更に上回り、186百万円となりました。

✓経常損益は修正計画を249百万円上回り、△50百万円、四半期純損益は修正計画を301百万円上回り△98百万円となりました。

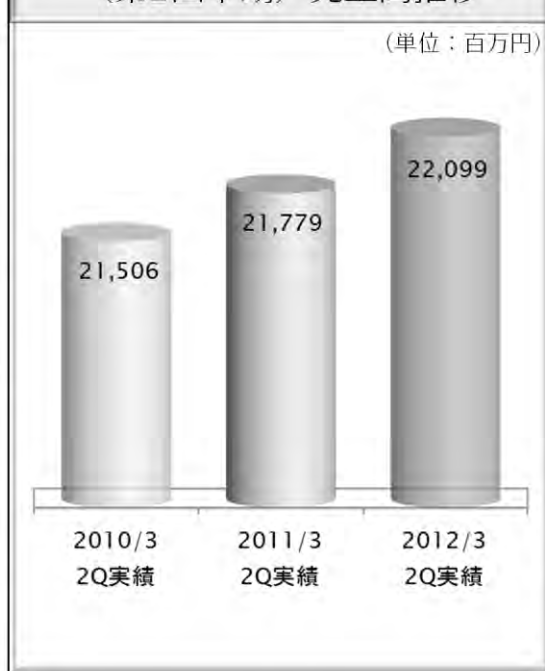
I 3-1-1. 連結損益計算書 概要

既存店が順調に推移し、計画を上回る

単位: 百万円	2012/3 2Q計画	2012/3 2Q実績	計画比	(参考) 2011/3 2Q実績
売上高	22,000	22,099	+99	21,779
売上 総利益	11,800 53.6%	11,846 53.6%	+46 ±0.0pt	11,681 53.6%
販管費	11,800 53.6%	11,659 52.8%	-140 -0.9pt	11,135 51.1%
営業 利益	0 -	186 0.8%	+186 -	546 2.5%
経常 損益	△ 300 -	△ 50 -	+249 -	138 0.6%
四半期 純損益	△ 400 -	△ 98 -	+301 -	△ 406 -

※ %は売上高比
※ 2012/3 2Q計画は2011年8月5日修正値

(第2四半期) 売上高推移



✓連結損益計算書の概要です。

✓第2四半期連結累計期間におきましては、既存店の業績が順調に推移し、すべての項目において計画を上回る結果となりました。

✓売上高は22,099百万円となり、前年同期と比較して320百万円増加し、1.5%の増収となりました。

✓今期は事業基盤構築の最終年度として人材及び商品・サービス力強化への投資を継続するとともに、中長期的な成長に向けた投資を行っております。一方で効率的な運営を進めた結果、販管費は11,659百万円（計画比 -140百万円）となりました。

✓その結果、営業利益は186百万円（計画比 +186百万円）、経常損益は△50百万円（計画比 +249百万円）、四半期純損益は△98百万円（計画比 +301百万円）となりました。

I 3-1-2. 国内ウェディング事業 売上高内訳

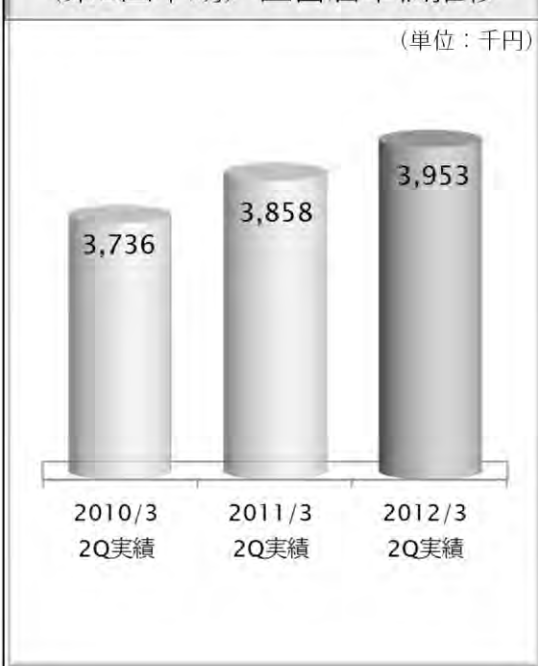
直営店は提案力の向上と順調な受注進捗により
単価は上昇基調を継続、前年比約10万円増加

単位: 百万円	2012/3 2Q計画	2012/3 2Q実績	計画比	(参考) 2011/3 2Q実績
直営店				
売上高	18,010	18,019	+9	17,961
取扱組数	4,505	4,507	+2	4,602
平均単価 (千円)	3,951	3,953	+2	3,858
平均人数	72	72	±0	73
プロデュース型				
売上高	935	954	+19	953
取扱組数	330	336	+6	333
平均単価 (千円)	2,822	2,824	+2	2,758

※ 2012/3 2Q計画は2011年8月5日修正値

※ プロデュース型には提携レストラン・提携ホテルを含む

(第2四半期) 直営店単価推移



✓続きまして国内ウェディング事業の売上高の内訳をご説明いたします。

✓直営店は、東日本大震災の影響が懸念されたものの、取扱組数は計画通りに進捗いたしました。

✓挙式披露宴単価は前年同期と比較して95千円増の3,953千円となり、上昇基調が続いております。これは営業提案力の向上や、受注進捗の順調な推移によるものであります。また、緻密なマーケティング活動による地域特性に応じた施策を展開したこと、クオリティを高めた料飲メニューや付帯商品の拡充を行ったことも寄与いたしました。

✓業界では画一的なパッケージプランや過当な価格競争が展開されておりますが、当社は挙式披露宴単価を重要指標と捉え、今後も、一組一組のお客様の想いをくみ取った、クオリティを重視した挙式披露宴の実現にこだわり続けてまいります。

✓以上のことから、直営店の売上高は18,019百万円となりました。

✓プロデュース型は、当社のプロデュース力を活かし、様々な個性とブランド力を有するレストランとの提携に加え、ビルイン施設のプロデュース及びホテル婚礼受託をスタートしております。

✓その結果、平均単価は前年同期と比較して66千円増の2,824千円となり、売上高は954百万円となりました。

I 3-1-3. 連結 売上総利益・営業利益

投資をしながらも効率的な運営により
販管費を抑制、営業利益は計画を上回る

単位: 百万円	2012/3 2Q計画	2012/3 2Q実績	計画比	(参考) 2011/3 2Q実績
売上高	22,000	22,099	+99	21,779
売上 原価	10,200 46.4%	10,253 46.4%	+53 ±0.0pt	10,097 46.4%
売上 総利益	11,800 53.6%	11,846 53.6%	+46 ±0.0pt	11,681 53.6%
販管費	11,800 53.6%	11,659 52.8%	-140 -0.9pt	11,135 51.1%
営業 利益	0 -	186 0.8%	+186 -	546 2.5%

※ %は売上高比
※ 2012/3 2Q計画は2011年8月5日修正値



✓売上総利益及び営業利益に係る項目の内訳についてご説明いたします。

✓売上総利益は、取扱組数及び挙式披露宴単価が順調に推移した結果、前年同期との比較では165百万円増加し、11,846百万円となりました。

✓また、今期は人材及び商品・サービス力強化への投資を継続するとともに、中長期的な成長に向け、新規出店及び新規提携案件について先行投資を行っております。その一方で効率的な運営を進めた結果、販管費は11,659百万円（計画比 -140百万円）となりました。

✓この結果、営業利益は186百万円となり、8月に発表した修正計画を上回る水準を確保いたしました。

I 3-1-4. 連結 営業外損益・特別損益・純損益

営業利益が計画を上回った結果 経常損益、四半期純損益も計画を上回る

単位: 百万円	2012/3 2Q計画	2012/3 2Q実績	計画比	(参考) 2011/3 2Q実績	主な要因等
営業 利益	0	186	+186	546	
営業外 損益	△300	△236	+63	△407	
経常 損益	△300	△50	+249	138	
特別 損益	△100	△54	+45	△717	
四半期 純損益	△400	△98	+301	△406	

(参考) 2011年3月期第1四半期
資産除去債務会計基準の適用に
伴う影響額 647百万円

※ 2012/3 2Q計画は2011年8月5日修正値

T&G
TAKE and GIVE NEEDS

✓経常損益及び四半期純損益に係る項目の解説です。

✓営業利益が計画を上回ったことから、経常損益は△50百万円（計画比 +249百万円）、四半期純損益は△98百万円（計画比 +301百万円）となりました。

I 3-2-1. 連結 貸借対照表 <資産の部>

震災影響を考慮し、手元資金の流動性を確保
今後キャッシュポジションの適正化を進める

単位: 百万円	2011/3 末	2011/9 末	増減	主な増減要因
流動資産	6,801	7,846	+1,044	
現金及び預金	4,094	5,024	+930	震災の影響を考慮し 手元資金の流動性を確保 現金及び預金 前年同期比+908百万円 (参考: 2010/9末4,116百万円)
固定資産	37,832	37,555	-276	
有形固定資産	20,927	20,897	-29	2012年3月期 資産効率を重視し 戦略的に資産の効率化を 推進する方針
無形固定資産	607	567	-40	
投資その他 資産計	16,297	16,090	-206	
資産計	44,634	45,402	+768	

T&G
TAKE and GIVE NEEDS

✓連結貸借対照表の資産の部の解説です。

✓総資産は45,402百万円（前会計年度末比+768百万円）となりました。

✓震災の影響を考慮し、手元資金の流動性を確保した結果、現金及び預金は5,024百万円となり、前期末との比較では930百万円の増加、前年同期との比較では908百万円の増加となりました。

✓今後キャッシュポジションの適正化を進めてまいります。

I 3-2-2. 連結 貸借対照表 <負債・純資産の部>

財務体質の強化 資産の効率化、有利子負債の圧縮を推進

単位: 百万円	2011/3 末	2011/9 末	増減	主な内訳
負債合計	28,186	29,120	+933	
流動負債計	12,598	13,890	+1,291	
短期借入金	1,770	3,472	+1,702	震災の影響を考慮し 手元資金の流動性を確保したため 一時的に有利子負債は増加 → 今後資産の効率化を推進し 有利子負債の圧縮を図る
(一年内) 長期借入金	4,823	4,085	-737	
固定負債計	15,587	15,229	-357	
長期借入金	12,800	12,598	-201	
純資産計	16,447	16,282	-165	
負債・ 純資産計	44,634	45,402	+768	

T&G
TAKE and GIVE NEEDS

✓連結貸借対照表の負債・純資産の部の解説です。

✓前述のとおり、震災の影響を考慮し、手元資金の流動性を確保したため、一時的に有利子負債は増加しております。

✓今後キャッシュポジションの適正化や、資産の効率化を推し進めることで、計画的に有利子負債は圧縮できる見込みであります。